

## 盛大に第54回総会 講演と室内楽演奏楽しむ 昨年超える272人参加

関東同窓会は6月27日（土）、第54回総会を東京都千代田区一ツ橋の如水会館で開いた。母校や同窓会本部、中南信支部、関西同窓会の来賓も合わせ、昨年の266人を上回る272人が参加した。受付前には上田市役所から駆けつけてくれた88期の同窓生が、真田丸放映決定の赤いのぼりやポスターを飾り付け、雰囲気盛り上げた。六文銭をあしらったピンバッジの販売も好評だった。

### ▽大河ドラマ裏話



総会に先立ち来年のNHK大河ドラマ「真田丸」のチーフ・プロデューサー屋敷陽太郎氏が講演。「真田丸」については主人公が真田信繁(幸村)、脚本が三谷幸喜、主人公は堺雅人が演じること以外は、極秘事項、とあって明らかにされなかったが、大河ドラマの制作についての考え方や、自身が手掛けた「新撰組」「篤姫」「江～姫たちの戦国～」などの裏話を、クイズやユーモアを交えて約50分にわたり披露した。会場には、何度も大きな笑いが起き、楽しい講演会となった。

「篤姫」の出身地鹿児島では、ドラマ放映前は篤姫のことを知る人はほとんどおらず、屋敷氏が県庁の人と飲んだ際「篤姫は無名の人。ドラマは当たらないね」と言われたが、放映から半年後には篤姫は大人気で、県立博物館の2階にあった「鹿児島

の偉人コーナー」には何もなかったのに、1階に「篤姫特別コーナー」ができたり、焼き鳥屋のメニューの半分に篤姫の名前が付いたりしたという。

放映で新しい発見があることも紹介。篤姫の侍女「幾島」の墓は放映を見た人が「そういえば先祖に江戸城で働いた人がいた」ことを思い出し、墓石に彫ってあった文字を大学の先生に調べてもらったところ幾島の墓と分かったという。屋敷氏は「真田幸村についても放映によって新たな発見があるのではないかと楽しみにしている」と期待を述べた。

屋敷氏は時代考証について、結果を性別、世代、教養など幅広い層の視聴者のどこに合わせるかでドラマがとんでもなく難解になるケースもあり、悩みながら作っていると明かした。「真田丸についても私たちの描く幸村についていろいろな意見があるかもしれない。家族で番組を見て3世代、4世代の会話のきっかけにするとともに、自分たちの街を見つめ直すきっかけにもらえるとうれしい」と結んだ。



### ▽元気を分かち合う同窓会に

続いて開いた総会では高梨奉男会長が「たくさんの方が同窓会に参集することが一番大事。同窓会は元気を分かち合う会であってほしい」と述べた。母校への貢献も大切としたうえで「何ができるか考えたが、当番幹事の強い要望で今年は室内楽班を招請した。費用のことはあったが母校の生徒の皆さんに東京で発表の場を持ってもらうのも母校への貢献だと考えた」と紹介した。

本年度予算について会長は「総会費だけで見ると赤字予算になる。繰越金を使う形になるが、今後経費は相当詰めていく」と理解を求めた。また、残っている特別基金の活用を検討する諮問委員会を立ち上げることにして委員の選定を考えていることも表明した。



### ▽現役学生も参加

隣室のスターホールに場所を移した懇親会は、室内楽班の2、3年生32人による演奏で始まり、バッハやモーツァルトの曲のほかムーンリバーなどの演奏が披露された。会場はいすを追加しても足りず立ち見が出るほどの盛況。参加者からは「アンコール」の声も上がった。最後は室内楽の演奏に合わせ全員で校歌を斉唱した。



飲み物を手に期ごとにテーブルを囲んで懇談が続き、最若手の参加となった大学生の加藤武蔵さん（110期）と金井奈穂さん（111期）があいさつ。金井さんは「同期生を誘ってくればよかった。次回はもっと大勢で参加したい」と語り大きな拍手が湧いた。



次ページに写真説明



## 写真説明

1. ユーモアたっぷり大河ドラマの裏話を語る屋敷陽太郎氏
2. 講演に笑顔の参加者
3. 「元気を分かち合う同窓会に」と高梨会長
4. 満員の会場で演奏する室内楽班
5. 演奏に聴き入る参加者
6. 最若手の参加者加藤さん（左・110期）と金井さん（111期）
7. 上田市職員の同窓生が駆けつけピンバッジを販売